

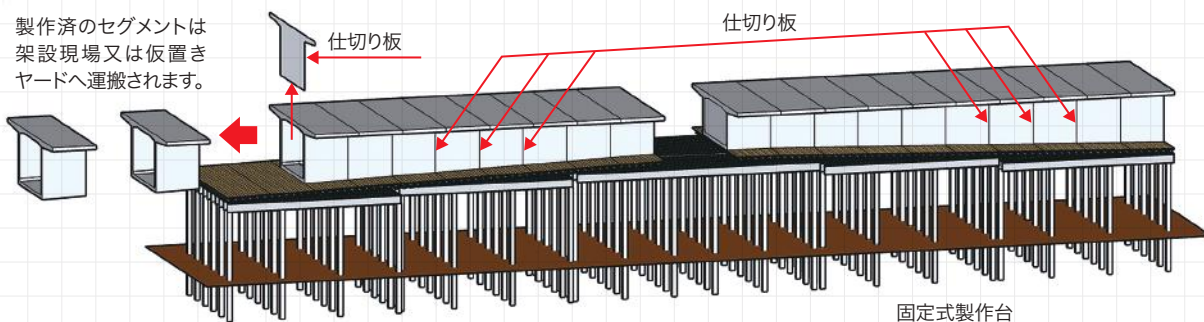
プレキャスト工法の活用(その3)

前号では、支間が概ね45m以下のプレキャスト桁製作・運搬・組立・架設(T桁、バルブT桁、コンボ桁、床版桁)について説明しましたが、今号では支間長が30～100mの橋梁で採用されているPC箱桁のセグメント製作について紹介します。製作方法はロングライン方式とショートライン方式があります。

● 製作方法による分類

■ ロングライン方式

多径間または2分の1径間分の固定式製作台を用意し、セグメントとセグメントの間に仕切り板を設置し一定区間を連続して製作する方法で、広い製作ヤードが確保できる場合に採用され、精度の高いセグメントを短期間で大量に製造でき、現場での作業が短縮されます。また、複数の型枠を準備することにより製作工期の短縮を図ることができます。



■ ショートライン方式

1セグメント分の底型枠を敷設してセグメントを1つずつ製作する方法で、一般的には、すでに製作されたセグメントの端面を型枠として、隣接したセグメントを製作するマッチキャスト方式と組み合わせて製作され、セグメントの接合面が高精度で、一貫した品質が確保されます。比較的狭い製作ヤードでも製作することができ、全体を覆う事ができるので天候に左右されることなく製作できます。

